

実用新案公報

⑬ 公告 昭和49年(1974)6月19日

(全2頁)

1

⑭ タッグ取付系

⑮ 実 願 昭43-59494

⑯ 出 願 昭43(1968)7月15日

⑰ 考 案 者 出願人に同じ

⑱ 出 願 人 永井秀一

横浜市戸塚区小菅ケ谷町1648

⑲ 代 理 人 弁理士 飯沼義彦

図面の簡単な説明

第1図、第2図、第3図および第4図はそれぞれ本考案の第1実施例、第2実施例、第3実施例および第4実施例を示す斜視図、第5図は本考案のタッグ取付系をタッグ取付機の管状針に装填した状態を示す説明図、第6図および第7図は本考案のタッグ取付系の使用状態を示す説明図、第8図は従来のタッグ取付ビンの使用状態を示す説明図である。

考案の詳細な説明

本考案は値札、荷札のごときタッグを繊維製品等に取付けるためのタッグ取付系に関し、特にタッグ取付機により機械的にタッグを取付けるのに適した係止片を有するタッグ取付系に関する。

従来管状針を有するタッグ取付機により繊維製品等にタッグを機械的に取付ける場合は、第8図に示すように1本のプラスチック製ビン1の一端に布地2に係止するための棒状係止片3を形成し、また他端にはタッグ4の穴に掛止めるための掛止板5を形成したタッグ取付用ビンが用いられていた。

上記のプラスチック製ビン1はかなり可撓性に富んではいるが糸にくらべると突張つた感じを与え、またタッグ取付作業を容易ならしめるためにタッグ4の穴を大きくすると掛止板5も大きくせざるを得ず、不体裁になるとともにタッグ4の表面の文字を遮蔽する場合も生じた。

本考案の目的は、従来のタッグ取付ビンのもつ上述の欠点を除去したタッグ取付系を提供することにある。

2

とにある。

このため本考案のタッグ取付系においては、タッグを取付けるべき繊維製品等に係止するための丸棒状の係止片と、輪状の取付糸とを具え、前記係止片の長さ方向のほぼ中央の一点に前記取付糸の一部を接続するように構成している。このように構成した本考案のタッグ取付系によれば、タッグの穴に掛止めるための掛止板が不要となり、第7図に示すようにしなやかな2本の細い糸により体裁よくタッグを取付けることができるとともにタッグ表面の文字を遮蔽する恐れもない。

次に図面について本考案の実施例を説明する。

第1図は本考案の第1実施例を示すもので、丸棒状の係止片6のほぼ中央の一点に、輪状の取付糸7の一部に形成したこぶ状部分8を埋没させたものである。また第2図に示す本考案の第2実施例においては、プラスチック製の丸棒状係止片6の内部に埋没された糸9が、係止片のほぼ中央の一点において外部へ露出し輪状取付糸7を形成してから、再び前記の一点において係止片6内へ埋没した構成となつている。この製法としてはプラスチック原料と1本の長い糸とを用い、1本の長いプラスチック棒に対し埋没した糸部分9と露出した輪状糸部分7とが交互に形成されるごとく成型加工する第1工程と、ついでプラスチック棒を各輪状糸部分7ごとに切断する第2工程をとることができる。

この実施例においては輪状の取付糸7が丸棒状の係止片6の内部に埋没された糸部分9に連続しているため、取付糸7が係止片6から抜け落ちる恐れがなく、また前述のように最善に適した製法をとることができる。

第3図の実施例は丸棒状の係止片6と輪状の取付糸7とをプラスチック原料により一体に成型加工したものを示しており、また第4図の実施例は棒状の係止片6と輪状の取付糸との接続部分に1本の短い中間部分10が介在したものを示している。

3

第5図は本考案によるタッグ取付系の丸棒状の係止片6を、タッグ取付機の管状針11の切溝12に装填した状態を示すもので、管状針11の内部において往復移動し得る中心棒13により、布地の裏側において係止片6が押し出されるよう

になつてゐる。
第6図は、第5図に示すごとく管状針にタッグ取付系を装填したタッグ取付機14により、布地2にタッグ4を取付ける作業を示しており、この作業の結果第7図に示すごとく、タッグ4が本考

案のタッグ取付系7を介して布地2に確実かつ体裁よく取付けられるのである。

このように本考案のタッグ取付系によれば従来のタッグ取付ピンにおいて必要としたタッグの穴

に対する掛止板が不要となり、したがつてタッグ表面の文字をかくす恐れもなく、タッグ取付機を用いて迅速かつ確実にタッグ取付を行なうことができるのであつて、本考案はこの種のものにおける実用性を一段と高めたものといつても過言ではない。

⑤実用新案登録請求の範囲

丸棒状の係止片6と輪状の取付系とを具え、上記係止片6の長さ方向のほぼ中央の一点に上記取付系7の一部を接続して成るタッグ取付系。

⑥引用文献

実 公 昭35-2098

